

## 令和4年度 第1回神栖市総合教育会議議事録

1 日 時 令和4年10月26日（水曜日）午後2時30分～

2 場 所 神栖市役所3階 庁議室

3 出席者 石田 進 市長  
新橋 成夫 教育長  
本間 敏夫 教育長職務代理者  
井上 剛 教育委員  
井口 久恵 教育委員  
鈴木 伸洋 教育委員

### 事務局職員

教育部長  
秘書課長  
教育総務課長  
教育指導課長  
教育指導課指導主事（1名）  
文化スポーツ課長  
文化スポーツ課長補佐  
担当職員（3名）

4 欠席者 なし

5 傍聴者 なし

**開 会 14:30**

### ○教育総務課長

それでは定刻となりましたので、総合教育会議を開催したいと思います。

会議の進行につきましては、神栖市総合教育会議設置要項第4条により、市長が議長となりますので、会議の進行をお願いしたいと思います。それでは議長よろしくお願いたします。

○市長

それでは、ただいまから令和4年度第1回神栖市総合教育会議を開催をさせていただきます。本日の議題でございますが、部活動改革について、意見交換をさせていただきたいと思えます。

働き方改革の中で、学校の部活動が大変先生方の負担になっているという声があることは、もうすでに皆さんご承知のことと思えます。

教員の皆さんの勤務実態調査によりますと、小中学校の教師の勤務時間は、未だ増加の傾向にあるようです。学校で担うべき業務は、非常に多く、以前は給食費の徴収なども行っていましたが、アンケートや調査などが多く、非常に負担になっているほか、学校行事などの対応準備もあり、学校の中で、本当に先生方がやるべき仕事かどうかということ、今まで以上に精査が必要ということを考えていかなくてはならないと思えます。

また、社会的な問題でもあるこの働き方の改革、特に教員の皆さんにとって、そして、実は医療関係も大変苦勞していますが、いかに働き方改革をソフトランディングしていくというのは、大事なことだと思えます。

今日は、働き方改革の中でも、中学校の部活動に絞らせていただいて、議論をお願いできればと思えます。総合教育会議では、様々な多岐にわたる意見をいただいて、後の改革の協議の題材とさせていただければありがたいと思っておりますので、忌憚ないご意見をお願いしたいと思えます。

ではまず初めに、事務局から、部活動改革について説明をお願いしたいと思えます。

○教育指導課長

部活動改革について、資料をもとに説明する。

○市長

ただ今、事務局から説明がありましたが、私からいくつか確認させていただきたいと思えます。

方針はまだ定まってないところもあるようですが、平日の部活動は学校で行うということですか。

○教育指導課長

今のところですが、平日の部活動につきましては、現状どおり学校の方が行う、あるいは、外部部活動指導員制度により、外部の方を取り入れて部活の指導を行うということになります。ただし、国の将来構想としましては、平日についても移行したいという考えがあります。

○市長

部活動に関しては、地域のスポーツクラブに移行していくという方針とのことですが、今現在、学校の部活動で、先生方も学校もすべての種目に対応できるわけではないので、いろいろ苦勞をされて合同チームを作ったりしているということですか。

○教育指導課長

はい、そうです。

○市長

では、大会についてはどうなるのでしょうか。大会というのは一つの目標でもあります。大会への参加は、土日であっても、学校が大会へ引率するのですか。

○教育指導課長

整理が進んでいないところですが、地域の休日の活動に参加されている場合は、その団体からの参加を可能とするような方向性ですが、学校単位で出場することも今までのとおり可能と考えます。

○市長

例えば県東地区大会を平日に施行したりして、学校の方で全部対応できるという形がスタートかと思うんですが、大きな大会になると課題も出てくると思いますので、そのような兼ね合いを今後は少し整理していかなければならないという状況ですね。

私の方から外郭について質問させていただきましたが、委員の皆さんからご質問やご意見など、よろしく願いいたします。

○教育委員

休日の地域部活動というイメージがないのですが、平日は各学校で本来の部員と一緒に部活動の練習をするとなると、休日は、どこでどのように行うのですか。

### ○教育指導課長

休日の地域部活動についてはいくつかの方法があり、現存するスポーツ団体への参加、学校単位の団体を預かって指導者を付ける、少年団の受け入れを拡充して中学生も一緒に活動する、社会人団体への参加など、手法としては複数ありますが、地方公共団体の実態に応じて、模索していかなければならないということになります。

### ○教育長

例えば、陸上競技であれば団体がありますので、中学校から参加することになりますが、平日も休日も参加することが可能となります。水泳については団体が存在しますので、団体に所属して大会には中学校名で出場するという形で、卓球についても団体が存在しますので、団体に所属して学校にも所属するという形で併用する場合があります。

また、混成チームについては、拠点校で練習をするということで、現在は学校の先生方が担当していますが、今後は外部コーチの方が来て指導者となるか、学校の部活動とは分離して、先生が兼職の許可を受けて参加することにより継続する方法があります。また、少年団については、中学生に門戸を広げて受け入れを可能としたうえで休日の活動に参加し、平日は学校の部活動に参加することになります。あるいは、シニアの野球のように、民間で活動費を徴収して活動する組織に参加することも考えられます。

### ○教育委員

そうすると、「休日部活動」という文言は必要なのかどうか。休日の部活動は学校では行わないというスタンスをとれるのでしょうか。

### ○教育長

文科省が考えているのは、学習指導要領の大幅な改定であると思います。今までは、いわゆる教育課程の一環ということであったところを、教育課程外という形になっていくと思われしますので、部活動を学校で行わなくて良いという判断もあり得ると思います。現在は過渡期であるので、しばらくは学校で部活を行いつつ、土日は、働き方改革として学校以外で行っていくということを模索することになります。もし先生方が関わるとすれば、仕事としてでない形で、兼職という形で関わることになるかと思えます。

### ○教育委員

現在、新人戦が終わって県大会の時期になると思いますが、具体的に市の現状として、合同チームで参加している部活動は、どのくらいありますか。

### ○指導主事

新人戦に関しましては、野球では、神栖一中、神栖四中、波崎一中でのチーム、神栖二中、平井中、清真学園でのチーム、サッカーでは、波崎一中と波崎三中のチーム、個人戦のある種目については、部員数が少なく、団体登録ができないため、波崎一中の女子剣道部が個人戦のみ出場、神栖一中の女子卓球についても個人戦のみ出場という状況です。

### ○教育委員

単独チームを作れないという状況は難しいですね。やはり、将来的には、一つのチームで練習して、そのチームで大会に出られるようになった方が、その時だけ練習して大会に出るというより、教育という意味では、良いと思います。

### ○教育部長

剣道については、道場で小学生や中学生を受け入れて教えています。道場や少年団に加入していても、大会には学校優先で出場している状況です。

### ○市長

やはり、マンパワーは必要ですね。地域の中で、指導者の方が、教育という意味合いも含めてスポーツを通じて学校との連携をとれるような、そのような方が地域にそれなりの数がいれば、あまり難しくないと思います。剣道には指導者がいることがわかりましたので、剣道の例を参考にできればと思います。

### ○教育委員

地域移行については、できるものからやっていくことが重要であると思います。学校単位となると、教育や運動それぞれに培われるものがあるため、可能性のあるものからできるものから着手した方が良いと思います。また、やはり指導員を確保していく必要があると思います。昔はよく、植松地区のあたりでは、企業の指導員がたくさんいて、小学校の陸上などをボランティアのように行ってくれていました。今は、企業も減り、当時の指導員の方も高齢になってきているので、人材の確保というのが課題となっていると感じます。

### ○教育委員

先生方の部活の状況について。また、文化部の現状としては、部員数としては足りている状況なのか教えてください。

### ○指導主事

部活動の活動状況についてですが、基本的には、平日は週に3日から4日の活動、休日は土日どちらか1日、という活動状況です。また、文化部で例えば吹奏楽部については、部員数はありますが、地域移行となった場合は、土日に活動している団体がないことや、楽器の持ち出しや運搬、部活動を行う場所の問題も出てきますし、指導者の確保も難しいという状況があります。

### ○市長

文化スポーツ課からは、何かありますか。

### ○文化スポーツ課長

文化スポーツ課は、令和7年度以降に地域移行となる場合に、指導者や受け皿を用意する担当課となります。課題としては、指導者など受け皿を確保したとしても、学校を民間の方が使えるのかどうか、使用料はどうなるか、学校のセキュリティなどの安全面の課題、クラブチームや指導者への受益者負担をどのようにするのか、などあります。その他には、例えば、部活動の一環ということでの市の補助、あるいは、公共施設の利用について負担する必要があるのかなど、細かな課題があります。スポーツ少年団の例が出ていましたが、しっかりとした組織もあればそうでない組織もあります。現在中学校の部活動で行われているものについては、受け皿を用意する必要があると考えていますが、成功した例をモデルにして検証し、整備していく必要があると思います。

## ○市長

ただ今、文化スポーツ課から細かな話が出てきましたが、決めていかななくてはならない課題がたくさんあります。そのために、学校と地域スポーツの連携をどうするか、ということをごきちんとしていかなければなりません。その中で、施設利用、そのときの万が一の保険、それはどこに責任の所在があるのか、そのようなところを、今後の課題として考えて行く必要があると思います。

また、文科省がどこまで具体的に示してくるかという動きにも注視していく必要があると思いますし、教育委員会それぞれで考えるべき部分があるのかどうか、そのような状況を見極めながら進めていこうとは思っています。総論については分かりましたので、各論を把握して欲しいと思います。

例えば、野球は大丈夫でない、柔道は大丈夫、剣道は大丈夫など、それぞれを目に見える形で教育委員の皆さんにお知らせしていく必要があると思います。また、このような指導者の方がいらっしゃるのか、有償か、無償か、地域のスポーツの受け皿があるのかないのか、これらは、結構大事な要素となると思います。

例えば、以前、硬式野球の選手が他市に行ってしまう現状から、地元で硬式野球チームをどうか、という提案があり、保護者からは、子どもを遠くまで行かせることに不安があったこともあり、そのような経緯があって誕生したのが波崎ボーイズです。現在は地元以外からも選手を集めており、全国大会にも出場しています。

保護者から負担金を集めている場合、練習環境を整えることが大変であり、少年団の考え方を取りまとめる必要があります。一生懸命プロを目指すチームから楽しく活動することを目的とするチームまでありますが、指導者は勝ちたいもので、勝って皆の結束を高め、目標に向かっていかないと続きません。褒めて選手は伸びるもので、褒めてチームはできるもので、その過程が教育です。そのような中で言えば、学校現場と指導者の皆さんが、時には生徒に係る意見を交換し、その生徒に声をかけるというきめ細やかさが教育ですが、地域移行というなかでは難しくなっており、そのような点を認識しての受け皿作りが必要になってきます。

## ○教育委員

本日の資料のアンケートにある、2,872件とは小中学生の人数ですか。

## ○指導主事

はい、そうです。

## ○教育委員

アンケートの休日の部活動がなくなった場合、休日にどのような活動をしたいですか、という質問に対して、7割の人が部活動をやりたくない、という解釈でよろしいでしょうか。重複している回答もあると思いますが、休日に活動をしたい人が1割くらいと考えると、その約1割の母数で受け皿を検討していくことで、規模についてはよろしいでしょうか。また、どのような活動をしたいかという質問に対して、大会等に参加したいという回答が約3割ですが、日曜日はほぼ試合であることも考えると、行政として用意するのは、大会の場を設置し、引率者として民間の指導者に見てもらおう、ということが、アンケートの結果から見た形になるのでしょうか。

## ○教育指導課長

今回の地域移行については、平日と同じ競技でなくても良く、例えば、平日野球やサッカーを行っていても、休日に剣道や卓球を行うことが可能です。アンケートは部活動がなくなったら、という質問でしたが、実際には向上心が高く、卓球などでは、学校の部活のほかに、地域のクラブにかなり参加しています。学校の1週間の活動時間以上に地域のクラブに参加している例もあります。

## ○教育長

やる以上は勝ちたいという気持ちがあるのか、社会体育として実施している学校開放も利用している例があります。受益者負担を求めるかどうかが問題で、ボランティアとしての実施に異議があるスポーツ関係者もいます。受益者負担を求めるとなると、公共施設を開放するかどうか、考える必要があります。

## ○文化スポーツ課長

受益者負担金として一律にしないと不公平感が出てしまいます。この点は、どこの市町村もこれからの課題です。

## ○教育長

県内でも、同じ学校のなかで費用負担を求めている部活動と求めていない部活動があり、問題になっている例があるようです。

## ○市長

今日は色々な課題が浮き彫りになりました。ところで、今一番人気の部活は何ですか。神栖二中で野球部員が足りないことに驚いているのですが。

○教育指導課長

準備が少なく取り組めるスポーツに人気があるようです。野球は道具がユニフォームやスパイクなど結構必要になります。また、団体種目を嫌う傾向があります。

○市長

最近良く耳にするのがダンスなのですが、ダンスの指導をしてくれる先生は、いらっしゃいますか。

○教育指導課長

複数のダンスの教室があり、特にジュニアでは保護者と一緒に活動しております。中学校にはダンス部がないのですが、民間の教室に通っている生徒は少なからずおります。

○教育長

スケートボード、チアリーディング、ダンスなどは人気はあるが、指導者がなかなかおりません。これまでマイナーであったこれらの競技がメジャーになってきており、これらの学校で行っていない部分の受け皿をどうするかが、これからの持続可能な部活動にあたっての課題になってくると思います。

○市長

国・県の指針等が出ておりますので、少しずつ議論を進め、部活動に関しても状況を良く見極め、指導者の有無、組織の有無などの点を含め、分析をする必要があると思います。また、教育委員の皆さんにも、状況について変更がありましたら、お知らせしたいと思いますので、よろしく願いをいたします。国の意向でもあるので、働き方改革はどの産業でも進んでおり、例えば大手のメーカーでは非常に進んでいますが、なかなか改革が進まないのが、この教育現場です。さまざまな問題がありますが、今後、状況を見極めて決定していかなければならないと思います。委員の皆さんから、今後について何かありましたらお願いします。

○教育委員

現場にいた経験からですが、保護者から外部のコーチを要望されたことがあり、その方の指導が子どもにとってプラスかどうかということを第一に考えて、面接のうち、採用の是非を判断したことがありました。外部の指導者については、その方が、どのような考えを持ち、どのようなところに力を入れているのか等を学校現場はきちんと把握して依頼する必要があると思います。

#### ○教育委員

地域に移行したとしても教育の一環としての部活動であることに変わりありません。部活動で何を教えるかですが、一つのコミュニティの場で子どもたちに学んでほしいことを、指導者は忘れずに指導していただきたいと思います。

#### ○教育委員

今の保護者は、部活で勝つためにという指導を受けてきたためか、このような、意識が強い保護者たちが多いと思うので、これからの目指す部活動については、文科省の考え方や学校のあり方など、考え方や指針をきちんと保護者に伝えていく必要があると思います。そのための情報発信を行って、基本となることを理解してもらうことが大事であると思います。

#### ○教育委員

これからの将来的なあり方ということですが、教育が基本であって、スポーツを通じて皆で協力したりして人格形成がされていくことを最終目標として、民間との共存をうまく行い、社会を回せたら良いと思います。

#### ○教育長

今日は、本当に貴重なご意見をいただきありがとうございました。我々現場の方も国や県の動向に注視しながら、市長部局とも連携をとり、進めているところです。対象が、学校だけでなく規則等の整備を含み、広範囲となりますが、子供たちの側に立って進めていきたいと考えています。一つ言えるのは、令和の日本型教育には、部活動が学校に存在しないということです。部活動が学校に存在しないとしても、スポーツや文化を通して教えてきたことを部活動以外で教えていかなければならないという厳しい立場に立つこととなりますので、そのようなことを現場の先生方にしっかり植え付けていかなければならないと考えています。本日は、ありがとうございました。

#### ○市長

本日は、貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。それでは、以上を持ちまして、令和4年度第1回総合教育会議を閉会いたします。本日は、お忙しい中、ありがとうございました。

閉 会 15 : 10